

知っていますか？記念日の起源

～空の日と航空日～

飯能市立博物館 学芸員 金澤 花陽乃

毎年9月20日は「空の日」です。また、この日から30日までは「空の旬間」とされ、各地の空港などで航空イベントが開催されています。「空の日」は、民間航空再開40周年を記念すると同時に、航空への理解と関心を高めてもらうことを目的として1992（平成4）年に設けられました。しかし、この「空の日」がもともとは「航空日」という戦時中に制定された記念日であるのをご存知でしょうか？

「航空日」が制定されたのは今から85年前、1940（昭和15）年です。この年は、日本初の動力飛行から30年、そして神武天皇即位2600年（紀元2600年）にあたります。そこで政府は航空技術の振興や航空知識の普及などを目的に「航空日」（※1）を制定し、国をあげてさまざまな行事を実施することとしました。行事は模型航空機競技大会やパレード、飛行演習など多岐にわたり、制定を記念した劇や歌も作られ流行しました。

さて、飯能では「航空日」に際してどのようなことが行われていたのでしょうか。戦時中の行事等に関する記録はほとんど残っていないのですが、当時の学校日誌からその一端を知ることができます。

各校の日誌を見ると、航空日には主に講話と模型飛行機の競技会が行われていたことがわかります。講話については、1940年の中藤尋常小学校や翌年の原市場国民学校の記事から、主に高学年を対象に行われていた様子が窺えます。また、競技会は「模型飛行機大会」「模型飛行競技会」「滑空機競技会」「飛翔大会」など学校により表記はまちまちであるものの、いずれも模型の飛行機を飛ばす大会であったようです。しかし、講話も競技会も日誌にはそれが行われた、ということしか書かれていないため、残念ながら詳細は不明です。

航空技術の振興や航空知識の普及という航空日の目的には、文化や文明の発展という側面ももちろんありました。しかし、時局を考えればそれが航空兵力の増強を想起させるものであったことは想像に難しくなく、子どもたちも、これらの行事を通じて飛行機や航空兵への憧れを強めていったのかもしれない。

戦後、GHQ（連合国軍総司令部）により航空に関わる活動の全てが禁止されたことで、航空日も休止となりました。しかし、1952（昭和27）年に禁止令が解除されると航空日も復活の機運を高め、翌年には復活第1回航空記念日大会が行われています。その後の経過は冒頭のとおりです。

時がたち、もとの航空日について知る人も段々と少なくなりつつあります。「空の日」が、85年前と同じ意味で使われる日が来ることの無いよう祈るばかりです。

事		記		童		兒		別		種	
		一航空日		席女	缺男	席女	出男	年學一	年學二	年學三	年學四
				1	3	41	50				
				0	0	47	45				
				0	0	61	47				
				1	0	51	42				
				4	3	37	31				
				1	2	41	35				
				7	8	278	270				
				0	0	37	40				
				1	2	32	29				
				1	2	69	69				

1944（昭和19）年 精明国民学校学校日誌より

表 学校日誌に見られる航空日の行事一覧

年度	学校名	内容
1940年 (昭和15年)	中藤尋常小学校	航空日ニツキ河田訓導尋四五六児童ニ航空機ニツキテ講話ヲナス
1941年 (昭和16年)	飯能第二国民学校	航空日ニツキ全児童模型飛行機大会ヲナス
	吾野第一国民学校	航空日 模型飛行機大会（校内）
	原市場国民学校	航空日ニ付キ初五以上児童ニ講話ヲナス（第三時）第四時ヨリ模型飛行競技会ヲ開催ス
	中藤国民学校	航空日ニツキ第四時滑空機競技ヲ行フ
1943年 (昭和18年)	飯能第一国民学校	航空記念日 飛行大会
	飯能第二国民学校	第四回航空日ニツキ田端・高山訓導講話アリ
1944年 (昭和19年)	飯能第二国民学校	航空日 飛翔大会実施（午後）
	原市場国民学校	午後飛翔大会アリ
	赤澤国民学校	第五回航空日ニツキ飛翔大会ヲナス
	精明国民学校	航空日 模型航空機飛翔大会ヲ開催ス（午前）疎開児童飯田先生ニ引率サレ参観ス

（※1）航空日の日付は1940年の第1回のみ9月28日とされましたが、翌年以降は9月20日に改められました。